

まなび通信 5月

令和8年5月18日発行
豊中市立第一中学校
SE担当

1年間よろしくお願いたします！

第一中学校教職員のみなさん、こんにちは。SE担当の 〇〇〇 です。前任校は第 〇 中で一 中 年目です。SE担当の役割は”各市町村全体の学力向上に向け、各市町村の学力課題に正対した取り組みを学校全体で行うためのコーディネート”とされています。まだまだ、手探りで不慣れな部分も多いですが、1年間よろしくお願いたします。

SEって？モデル校って？

今年度、第一中学校は
大阪府
スクールエンパワーメント（SE）推進事業
確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校
豊中市
確かな学力育成モデル校
の指定を受けています。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組み、その成果を発信することが求められています。

ここまで聞くと難しそうというイメージをお持ちかもしれませんが、一中では一昨年度から学習指導部や学力向上プロジェクトチーム（今年度は必要に応じて行う教科代表会議に改変）を中心に、授業改善に取り組んできました。また、確かな学力育成モデル校の指定も2年目となりました。今年度も昨年度までの取り組みを踏まえながら生徒自身が「授業っておもしろいやん！」と感じる授業作りを皆さんと一緒に目指していければと思っています。



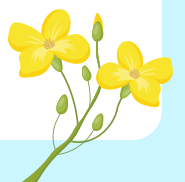
担当者の仕事

- ★担当教科でTTとして授業を行う。
（T1「師範授業」、T2どちらでも可能）
- ★担当教科で授業を行い、教科担任に他教科の授業参観を行ってもらう。
- ★授業を参観し、気づきの助言や交流を行う。＊批判・指導ではありません
- ★教科担任と相談し、単元や授業の指導計画を作成する。
- ★先生方の課題や悩みに応じた研修会の設定や伝達研修を行う。
- ★授業を参観し、先生方の取り組みを学校全体に共有する。

etc...

の時間割

基本 先生の授業にT2 or T1で参加しています。が、リクエストがあれば可能な限りその時間対応します。



学びを加速させる「教室環境づくり」

5月に入り、GWも終わりましたが、新生活の始まりの時期にあたり“誰もが安心して学習に集中でき、生徒が主体的に動ける教室環境”を整えるためのポイントを紹介します。

ユニバーサルデザインにつながる「学校環境の整備」 (基礎的環境整備編)

誰もが生活しやすい環境づくり

- 1 教室環境の構造化**
 - 教室のものは置く場所を決め、置き方などが一目で分かるように整理する。
 - 教室背面は学習の足跡の掲示(子どもの作品や、学習の成果など)
 - 教室側面は、毎日の生活にかかわる係活動コーナー等(日直の仕事、給食当番表、清掃当番表、お知らせ、お便りなど)
- 2 刺激量の調整**
 - 学習に集中できるように刺激量を制限する。
 - 教室前面は学習に集中できるように掲示物は必要最小限なものとする。
- 3 ルールの明確化**
 - 学級のルールを「見える化する」。「見れば分かる」ことが大切である。(机とんマーク表示や、清掃ロッカーの写真掲示等)
- 4 子ども同士の相互理解**
 - 規律ある整然とした環境で、お互いの安心・安定を生みだし、あたかも学級づくりを進める。

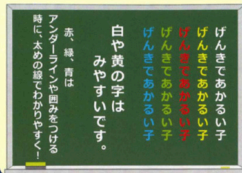
生活しやすい環境づくりは、学級だけでなく、学年、学校で共通理解をして取り組むことが大切です。担任が替わる、教室がかわることが児童生徒にとって混乱の原因にならないように、どの教室も使い方を共通にするとういでしょう。

① 黒板周りをスッキリ



教室前面の壁面の掲示物は必要最小限なもの(教育目標、ステージ目標など)にすることで、子どもたちの授業への集中力が高まる。黒板の周辺にはできるだけ掲示しない。

② 色のバリエーション



色によって、学校生活で不便を感じている子どもがいる。色の見え方が他人と異なる子ども(色弱・色覚異常)への配慮が必要。

- ・チョークの色は、白と黄色を基本にする。
- ・緑、青などの暗い色のチョークは極力避ける。
- ・ユニバーサルデザイン対応のチョークを活用する。
- ・大きく、はっきり書く。
- ・掲示物・プレゼンテーションでは色の数を少なくし色の多用に注意する。

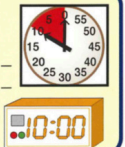
⑥ 提出物収納カゴ

毎朝の提出物は、何を、どこへ提出するのか誰にでも分かりやすくしたい。1日のよいスタートにもつなげる。提出の仕方を工夫することで担任もノート回収、点検、配付がしやすくなる。



⑦ 作業など時間の区切りがわかるようにタイマーを使用する

文字盤もはっきりと見える大型のタイムタイマーや、残り時間が掲示されるカウントダウンタイマーを使うと、終わりまでの気持ちの整理や準備などができるため、強力な支援の道具となる。



⑧ 教室側面・教室背面の掲示

掲示物の内容や量を整理し、厳選したり、掲示位置を工夫したりすることは学習環境づくりとして大切な視点である。

教室側面は毎日の生活にかかわるコーナー(日直の仕事、給食当番表、清掃当番表、係活動など)

教室背面は、学習の成果や、学習の足跡がわかるようなコーナーとしてつかう。(子どもの作品、授業のふり返りなど)



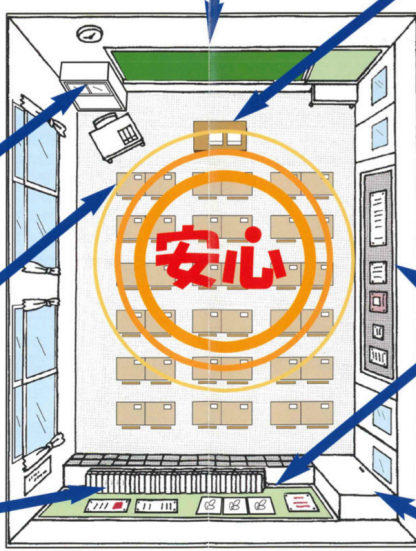
⑨ 見れば分かるルール

写真の見本を示して片付けやすい工夫する。

いつもきちんと整頓することで道具の劣化も防ぐことができる。物を大切にしようとする心も子どもの中に育っていく。



※ その他、有効だった取り組みを校内で紹介し合い共有しましょう。



※ 写真は、藤枝市内で先進的な取組をしている学校のものです。

藤枝市教育政策課「ユニバーサルデザインにつながる「学校環境の整備」を教師に向けて提案!」.2019-12-20
<https://www.city.fujieda.shizuoka.jp/soshiki/kyoiku/kyoikuseisaku/oshirase/1528958184362.html>, (2026-5-17).

本校のHR教室は黒板回りに掲示板とホワイトボードがあるため生徒の視界に入りやすい場所の情報が多くなりやすい傾向にあります。黒板横にあるホワイトボードを取り外し後方掲示板へ移設する案は予算員会でも話題に上がりましたので今後検討したいと思います。既に学年もち等であるホワイトボードを後方掲示板に取り付けたい場合は、もしも用務員さんにご相談ください。

また、特別教室も指導書に同梱されているポスター教材等を適切に掲示できているかなども適宜教科会などの折にご確認ください。

学年や使用する教室が変わっても同じ＝誰もが安心できる環境といえます。学年や教科で共通意識を持ちながら教室環境づくりに取り組んでいただければ幸いです。

